

強くて可笑しい日光責め (4月2日) 輪王寺の強飯式

山伏が山からお供え物を持ち帰り、人々に分け与えたのが始まりだそうです

式のハイライトは「日光責め」とも呼ばれる
強飯頂戴の儀

世界遺産の日光山で「山盛りご飯を食べろ」と強いる、ちょっと変わった儀式を受けると、大きな福を授かるという。

日光市
栃木県
宇都宮

絵と文
溝ロイタル

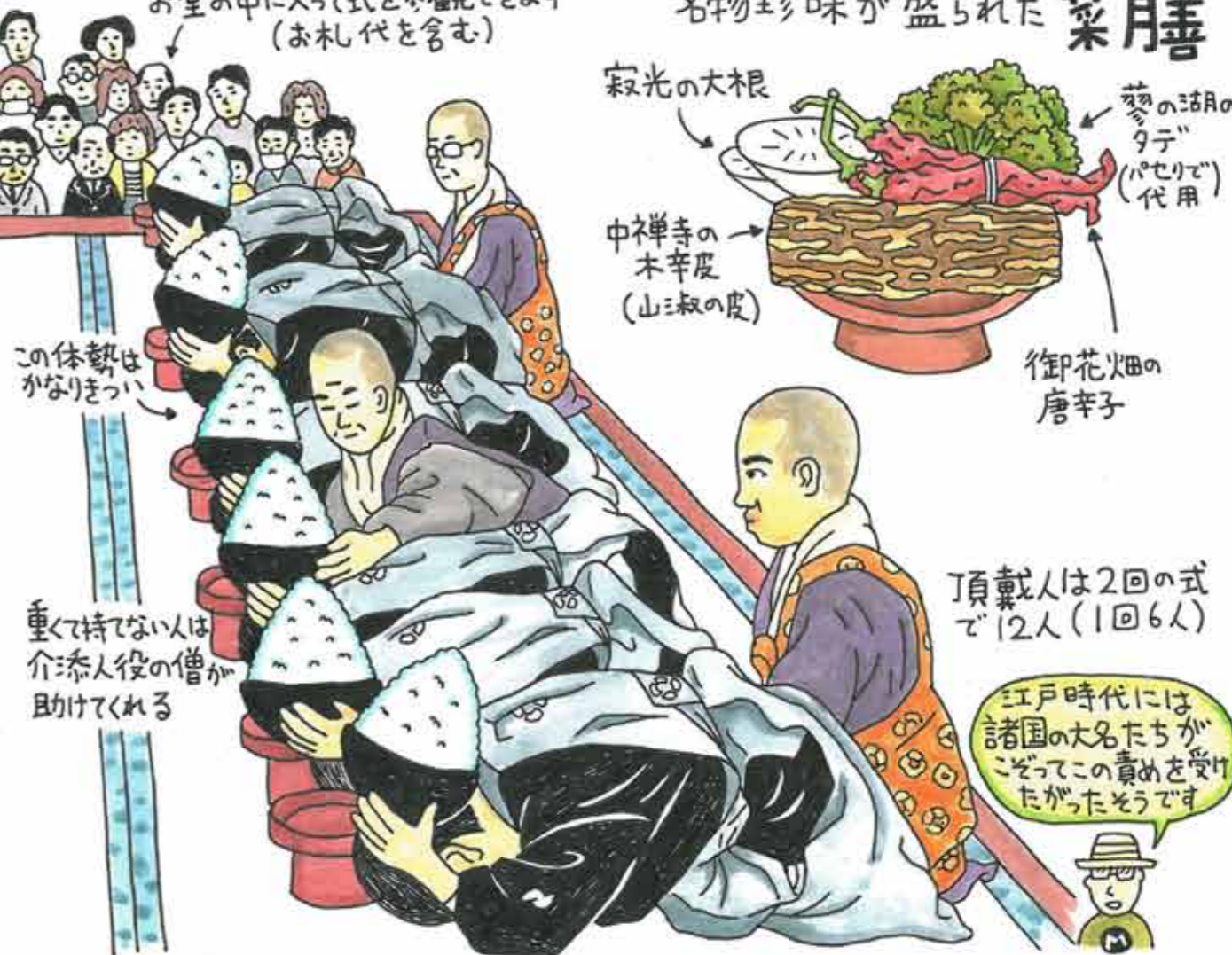
山盛りの
三升飯



一杯二杯に非ず七十五杯!!
75は14孝で万物を表わす数



祈禱料3000円を払うとお堂の中に入って式を参観できます(お札代を含む)



ご飯の次に出てくるのは、日光山の名物王珍味が盛られた菜膳



頂戴人は2回の式で12人(1回6人)

江戸時代には諸国の大名たちがこぞってこの責めを受けたがったそうです

笑いどよめき、大迫力の儀式

大きなお椀に盛られたご飯を、「一粒残さず平らげろ!」と強要する奇妙なお祭りがある。毎年4月2日、日光山輪王寺で行われる「強飯式」だ。大飯食らいのボクなどは、つい楽しそうなお祭りを想像してしまうのだが、実は日光山に古くから伝わる修験道の流れを汲む儀式の一つなのだ。

式は午前11時と午後2時の二回、輪王寺本堂の三仏堂で行われる。法螺貝を吹き鳴らす山伏を先頭に僧侶、強飯僧、そしてこの日強飯を受ける頂戴人たちの行列がお堂に入ると、重い木の扉がギーッと音を立てて閉じられる。蠟燭のわずかな灯りだけとなった堂内は春先とはいえ、ひんやりとして肌寒い。

荘厳な雰囲気の中執り行われる読経と護摩供養。護摩の炎がゆらゆらと揺れ本尊の阿弥陀如来を照らし出している。なんとも神秘的な光景。それが終わると照明が灯り雰囲気は一変。袈裟の頂戴人達が登場し、いよいよ式の目玉「強飯頂戴の儀」の始まりだ。まずは山伏姿の強飯僧が大きな杯

を持って現れ「しかと飲みほせ」と頂戴人に向かってかなり強引に御神酒をすすめる。酒を注ぐ動作がこれでもかというほど大袈裟で見物人から思わず笑いがもれる。続いて大きな黒いお椀に高々と盛られたご飯が登場し、笑いどよめきに。通称三升飯。三升は一合の三十倍。これを頂戴人の顔の前に

突き出し「三社権現より賜りたところのお供えじゃ。うやうやしく頂戴あれ!」と迫る。さらには「頭が高い!」と怒鳴り、思わず量に額をこすりつけるようにひれ伏す頂戴人のその後頭部に、な、な、なんと三升飯を乗ってしまったではないか。再びおこる笑い声。やっぱり楽しいお祭りだ。身動き

がとれなくなった頂戴人に追いつけかけられるように「一杯二杯に非ず七十五杯、ずかずかと取り上げてのめそう」。ヒエ〜、七十五杯って。
次に運ばれてくるのは日光山の名物珍味が盛られた菜膳だ。山椒に唐辛子に大根などなど。辛い物責めなのか? これだけ責められたら、どんな